

MSG1-2⇒良き地に入ることについて
 MSG3-9⇒良き地を所有し享受することについて
 MSG10-12 ⇒良き地でいかに生活するかについて

MSG11 は、モーセが申命記において命じたことについてであり、
 MSG12 は、パウロのⅡコリントでいかに生活したかについてです

MSG12 良き地としてのキリストを享受する生活をして、 その結果、宮、すなわち神の住まいと都、すなわち神の王国を持つ 主要な聖書の箇所			
良き地としてのキリストを享受する	恵みの生活	Ⅱコリ 3:14	主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。
		Ⅱコリ 1:12	わたしたちはこの世にあって……肉の知恵においてではなく、神の恵みの中で振る舞いました。
		Ⅱコリ 6:1	そしてわたしたちは、神と共に働きながらあなたがたに懇請します。神の恵みは無駄に受けることがないようにしなさい。
	労苦する生活	ピリピ 3:13	わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、……前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、
	集会する生活	Ⅰコリ 14:26	あなたがたがいつも集まるときには、それぞれの人に……があり……すべての事を、建造のために行ないなさい。
礼拝する生活	申 12:5	エホバ・あなたがたの神が、あなたがたの全部族の中から選んで彼の御名を置かれる場所、すなわち彼の住まいを尋ね求めて、そこへ行かなければならない。	
その結果として、 生み出される	家(宮)と都 合併	列王(上)8:48	あなたが彼らの父祖に与えられた彼らの地、あなたが選ばれた町(都)、わたしがあなたの御名のために建てた家(宮)に向かってあなたに祈るなら、
		啓 21:3	「見よ、神の幕屋が人と共にある。……神自ら彼らと共にいて」
		啓 21:22	わたしはその(都の)中に見なかった。主なる神、全能者と小羊が、その宮(その都の宮)だからである。

*アウトラインの流れ、思想

M12 良き地としてのキリストを享受する生活をして、 その結果、宮、すなわち神の住まいと都、すなわち神の王国を持つ					
良き地としてのキリストを享受する生活	I	恵み	良き地の実際はⅡコリントにある	A	良き地の実際は恵みとしてのキリストです
				B	恵みの意義
				C	恵みの経験
	II	労苦	キリストの上で労苦する生活	A-D	キリストの上で勤勉に労苦する生活
				E	勝利者になる生活(別表十項目)
	III	集会	集会の中でキリストを展覧する生活	A-C	神で満たされ、キリストに満ちあふれた集会
				D	集会で語るものをいつも持っている
	IV	礼拝	主の選ばれた場所で礼拝する	A	霊の中と召会の中で礼拝する
				B	一の真の立場の上で礼拝する
				C	主が選んだ場所の四つの特徴
	その結果、 生み出される家(宮)と都、そして合併	V	家都	家(宮)、都としての召会	A
B-C					神の家(宮)と神の王国
	VI	合併	神性と人性の合併	良き地としてのキリストを享受することの究極的結果	

メッセージ 12

良き地としてのキリストを享受する生活をして、
その結果、宮、すなわち神の住まいと都、すなわち神の王国を持つ
聖書：Ⅱコリント 13:14. 1:12. 4:15. 6:1. 8:1, 9. 9:8, 14. 12:9

I-IV、良き地としてのキリストを享受する生活

I、恵みの生活

コリント人への第一の手紙は、旧約におけるイスラエルの子たちの歴史を用いて新約の信者たちの予表としています。霊的に言って、良き地の実際はコリントの第二の手紙にあります。

I. コリント人への第一の手紙は、旧約におけるイスラエルの子たちの歴史を新約の信者たちの予表としていますが（Ⅰコリント 5:7-8. 10:1-13）、コリント人への第一の手紙の中に良き地の言及はありません。なぜなら、霊的に言って、良き地の実際はコリント人への第二の手紙にあるからです：

***コリント人への第二の手紙における良き地の実際は、神聖な恵みとしてのキリストご自身です；主イエス・キリストの恵みは、この手紙の中心思想、また主題です。**

A. コリント人への第二の手紙における良き地の実際は、神聖な恵みとしてのキリストご自身です。 主イエス・キリストの恵みは、コリント人への第二の手紙の中心思想、また主題です——Ⅱコリント 13:14. 1:12. 4:15. 6:1. 8:1, 9. 9:8, 14. 12:9。

***恵みとは生けるパースンであり、すべてを含む、命を与える霊と成って、使徒の中に住んで、彼を力づける享受となりました**

B. Ⅰコリント第15章10節の「わたしではなく、……神の恵み」は、ガラテヤ第2章20節の「もはやわたしではありません。……キリスト」と等しいのです。使徒を動機づけ、彼の中で活動した恵みは、事柄や事物ではなく、生けるパースン（ヨハネ 1:16-17）、復活したキリスト、父なる神の具体化であり（コロサイ 2:9. ヨハネ 14:7-11）、すべてを含む、命を与える霊と成って（Ⅰコリント 15:45 後半. Ⅱコリント 3:17）、使徒の中に住んで彼を力づける享受となりました（Ⅱテモテ 4:22. 2:1）。

***恵みとは、神がキリストの中でその霊としてわたしたちの中に内住し、わたしたちの享受となり、わたしたちを力づけ、支え、いかなる種類の問題にも直面させ、すべての状況に適合させ、神の家また神の王国としての召会を建造するために、わたしたちを神のさまざまな恵みの良い家令とならせます。**

C. 恵みとは、神がキリストの中でその霊としてわたしたちに与えられ、わたしたちの享受となり、わたしたちを力づけ、能力を与え、支え、強めて、いかなる種類の問題にも直面し、すべての状況に適合し、いかなる種類の扱いも耐え忍び、いかなる種類の環境も受け入れ、いかなる種類の状態の下でも働き、いかなる種類の機会もとらえることができるようにすることです。それは、わたしたちが良い家令となり、神の多様な恵みを他の人たちの中へと分与して、神の家また神の王国としての召会を建造するためです——Ⅰコリント 15:10. Ⅱコリント 1:3-12. 12:7-9. Ⅰペテロ 4:10. エペソ 3:2。

II、キリストの上で労苦し、キリストを享受する生活

わたしたちは、神の目にどのように、良き地によって予表される、すべてを含むキリストを享受する生活をするかを見る必要があります

II. わたしたちは、神の目にどのような生活をして、良き地によって予表される、すべてを含むキリストを享受することができるようになるかを見る必要があります——コロサイ 1:12. 2:6-7 前半：

***生ける神の宮、すなわち生ける神の家としてのキリストのからだを建造するために、キリストの上で労苦する生活をする必要があります**

A. わたしたちはキリストの上で労苦する生活、個人的にキリストを享受する生活をする必要があります。 それは、わたしたちが団体的にキリストを共に享受して、生ける神の宮、すなわち生ける神の家としてのキリストのからだを建造することができるためです——Ⅰコリント 3:17. Ⅰテモテ 3:15。

***神のみこころは、わたしたちがキリストを享受することです；あらゆる状況においてキリストを享受し経験することを追い求める必要があります。**

- B. 神のみこころは、わたしたちがキリストを享受することです（ヘブル 10:5-10、I コリント 1:9）。わたしたちは、あらゆる状況においてキリストを享受し経験することを追い求める必要があります（ピリピ 3:7-14）。

***しかし、今日、主の子供たちが怠惰であるので、召会は貧しさの中を這いつくばっています**

- C. キリストは計り知れないほど豊富ですが、主の子供たちが怠惰であるので、召会は今日貧しさの中を這いつくばっています——箴 6:6-11、24:30-34、26:14、マタイ 25:26、30。

***いつも集会に来て主を礼拝するとき、空手で来るべきではありません。わたしたちの手はキリストの産物で満ちていなければなりません**

- D. わたしたちは集会に来て主を礼拝するとき、空手で来るべきではありません。わたしたちの手はキリストの産物で満ちていなければなりません——申 16:15-16：
1. わたしたちは彼を十分に産出しなければなりません。そうしてはじめて余剰を持ち、その余剰を乏しい者と貧しい者に与え、祭司とレビ人に与え、最上のものを主ご自身に与えます——15:11、18:3-4、12:11。
 2. キリストをもって神を礼拝することは、互いにまた神と共にキリストを享受することによって、神のすべての子供たちと共に団体的に彼を礼拝することです——I コリント 14:26。

***わたしたちは勝利者になりたいなら、わたしたちの良き地としてのキリストの上で労苦し、わたしたちの享受としてのキリストを獲得する必要があります：**

- E. わたしたちは勝利者になりたいなら、わたしたちの良き地としてのキリストの上で労苦し、わたしたちの享受としてのキリストを獲得する必要があります：
1. **毎朝**わたしたちは、主を享受し経験するという単一の目的のために、自分自身を真実に主にささげなければなりません——参照、ピリピ 3:13-14。
 2. 毎日わたしたちは個人的に、またひそかに主と共に**時間を費やして**、彼と親密な交わりを持つ必要があります——マタイ 14:22-23、6:6、出 33:11 前半。
 3. わたしたちは毎日、朝早く御言の中で主を享受して、**日ごとに新しい開始を持つ**必要があります——詩 119:147-148。
 4. わたしたちは**徹底的に罪を対処して**、わたしたちと主との間に何もないようにする必要があります——I ヨハネ 1:7、9、参照、エゼキエル 1:22、26。
 5. わたしたちは瞬間ごとに**主との交わりを維持し、祈りの生活をする**必要があります——II コリント 13:14、ピリピ 4:6-7、哀 3:55-56、参照、マタイ 11:25-26。
 6. わたしたちは時を贖い取って、また自分のエネルギーを費やして、**神の聖なる御言で浸透され、浸される必要があります**——II テモテ 3:16-17、コロサイ 3:16。
 7. わたしたちは時を贖い取って、**いつも喜び、絶えず祈り、あらゆる事で感謝する**ことによって、霊の中で満たされているべきです——エペソ 5:18、I テサロニケ 5:16-19。
 8. わたしたちは良き地としてのキリストの豊富を経験するために、**わたしたちの霊によって支配され、管理され、方向づけられ、動かされ、導かれなければなりません**——II コリント 2:13。
 9. わたしたちは良き地としてのキリストの豊富を経験するために、**キリストのパーソン、臨在、御顔の中で生きなければなりません**——10 節、4:6-7、3:16-18、12:2 前半：
 - a. わたしたちはすべてを含む地としてのキリストを所有するために、**彼のパーソン、彼の臨在によって管理され**なければなりません——出 33:14。
 - b. パウロは**キリストのパーソンの中で生き**ていたので、キリストを不変であることとして（II コリント 1:17-20）、柔和と優しさとして（10:1）、真実として（11:10）、力として（12:10、13:4）、恵みとして（14 節）、彼の中で語る方として（3 節、参照、2:17）経験しました。
 10. わたしたちはキリストを恵み、すなわち良き地の実際として受けます。それは**聖霊の砕き構成する働きを通してであり、それによってわたしたちの内なる存在は神聖な三一をもって再建されます**——II コリント 12:7-10、13:14。

Ⅲ、霊と真実の中で礼拝する、集会の生活

ささげ物/真実；わたしたちは共に集まる時、**労苦したキリストを展覧する必要があります。すなわちわたしたちが享受し、経験したキリストです。**

Ⅲ. わたしたちは共に集まって、わたしたちがその上で**労苦したキリスト、すなわちわたしたちが享受し経験したキリストを展覧しなければなりません**——申 14:22-23 :

***わたしたちは集会の中でキリストを団体的に享受することができます。また日常生活においても個人的に享受するキリストを団体的に享受する**

A. わたしたちが集会生活においてキリストを団体的に享受するために、日常生活においてキリストを個人的に享受するとき、神はわたしたちの間におり、わたしたちは彼の住まい、また彼の王国です。

***召会の集会は神で満たされ、そのすべての活動は神を人々に伝達し、伝え、彼らに神を注入します**

B. わたしたちがそのような程度にまでキリストを享受するとき、召会の集会は神で満たされ、そのすべての活動は神を人々に伝達し、伝え、彼らは神を注入されます—— I コリント 14:25。

***すべての人がキリストに満ち、キリストをもって光を放ち、労苦したキリストを展覧します。それが神の民が神を真に礼拝するということです。**

C. 神の民が神を真に礼拝することは、すべての人がキリストに満ち、キリストをもって光を放ち、労苦したキリストを展覧するときにあります。

***すべての集会の中で、わたしたちは霊を活用して、神への自発的なささげ物として、神のために語る必要があります。**

D. わたしたちはすべての集会の中で、神への、また参加者への自発的なささげ物として語るものをいつも持っているべきです—— I コリント 14:26 :

1. 集会に来る前、わたしたちは集会のために自分自身を準備し、主の何かを持っているべきです。それは、わたしたちが主を経験することを通して、あるいは主の言葉を享受し、祈りの中で彼と交わりを持つことを通してです。

2. 集会に来た後、わたしたちは靈感を待つべきではありません。わたしたちはわたしたちの霊を活用し、わたしたちの訓練された思いを用いて機能し、主に対して彼の栄光と満足のために、また参加者に対して彼らの益（彼らが照らされ、養われ、建造されること）のために準備したものをささげるべきです——31-32 節。

場所/霊：わたしたちは、**主が選んだ場所(わたしたちの霊の中と、一の唯一の立場の上)で団体的に礼拝しなければなりません**

Ⅳ. わたしたちは、**主が選んだ場所(わたしたちの霊の中と、一の唯一の立場の上)で子供たちと集まり、団体的に礼拝しなければなりません**——申 12:5, 11, 13-14, 18, 16:16. ヨハネ 4:24 :

***わたしたちは神の聖なる所へ入るには、わたしたちの霊に戻り、召会の集会に参加する必要があります。その中で神聖な啓示と、すべての問題の説明を受けます。**

A. **第一に**、神の聖なる所、彼の住まいはわたしたちの**霊の中**にあります (エペソ 2:22)。**第二に**、神の聖なる所は**召会です** (I テモテ 3:15)。こういうわけで、わたしたちは神の聖なる所へ入るために、わたしたちの霊に戻り、召会の集会に行く必要があります。わたしたちの霊の中と召会の中で、わたしたちは神聖な啓示とわたしたちのすべての問題の説明とを受けます (詩 73:16-28)。

***わたしたちは一の真の立場の上で、キリストのからだの唯一の一を保たなければなりません**

B. わたしたちは一の真の立場の上で、キリストのからだの唯一の一を保たなければなりません :

1. 召会生活の実行は、一つの都市に対して一つの召会、一つの都市にただ一つの召会を持つ実行です——使徒 8:1, 13:1, I コリント 1:2, 啓 1:11。

2. 一の真の立場の上で、わたしたちは主を塗り油、新鮮にする露、命じられた命の祝福として享受します——詩第 133 篇。

主が選んだ場所には四つの特徴があります: 1)キリストの御名以外のいかなる名もあってはなりません、2)霊を活用(訓練)する場所、3)キリストの豊富を享受する場所、4)喜びの場所

C. 主が選んだ場所には四つの特徴があります：

1. 主によって選ばれた場所には、キリストの御名以外のいかなる名もあつてはなりません——申 12:5. 啓 3:8。
2. 主によって選ばれた場所は、霊を活用することに満ちています——エペソ 2:22. ヨハネ 4:24. I テモテ 4:7. I コリント 14:32。
3. 主によって選ばれた場所は、キリストの豊富を享受する場所です——申 12:7, 18. 詩 36:8-9。
4. 主によって選ばれた場所は、喜びの場所です——申 12:7, 12, 18. 詩 42:4. 122:1。

それらの生活の結果として生み出される、

(IV)神の家(宮)、都としての召会と/(V)神性と人性の合併である神の永遠の住まい、

わたしたちが良き地としてのキリストを享受した結果は、宮、すなわち神の住まいとしての、また都、すなわち神の王国としての召会です

V. わたしたちが良き地としてのキリストのすべてを含む豊富を享受した結果は、宮、すなわち神の住まいとしての、また都、すなわち神の王国としての召会です——エペソ 2:21-22：

***宮と都のある地は、神のご計画の中心です**

A. 宮と都のある地は、神のご計画の中心です——列王上 8:48 とフットノート 1：

1. 地はキリストご自身であり、宮と都はキリストの豊満、すなわち召会、彼のからだです——エペソ 1:22-23. 2:21-22。
2. 宮は神の表現のためであり、都は神の支配のためです。これは神の永遠の定められた御旨を成就します——創 1:26。

***神の家(宮)は、神が表現される住まいであり、神の臨在を語っています、**

B. 神の表現のための神の家、すなわち彼の住まいの主要な面は、神の臨在について語ります：

1. 神の家は神の臨在の場所であり、神の臨在は神の栄光 (詩 26:8. 29:9)、神の麗しさ (27:4, 8)、神の豊富 (36:8-9) です。
2. 神の家は、啓示の場所と神が答えられる場所です——73:16-17. 3:4. 18:6。
3. 神の家はわたしたちの隠れ場です——27:5. 参照、31:20. 84:3。
4. 神の家は、わたしたちが植えられ、栄え、実を結ぶ場所です——92:13-14。
5. 神の家は泉の場所です——87:7。
6. 神の家は、わたしたちが力づけられる場所です——68:35. 96:6。
7. 神の家は、わたしたちが神とミングリングされる場所です——92:10。
8. 神の家は、神がわたしたちの分け前である場所です——73:26。

***神の都は、神の王国であり、神は権威を持ち、神の行政/権威を語っています。**

C. 神の支配のための神の都、すなわち彼の王国の主要な面は、神の権威について語ります：

1. 神の都は強い都、大いなる王の都です——31:21. 48:2。
2. 神の都の中には、喜ばせる流れのある川があります——46:4-5。
3. 神は彼女の中で知られ、また彼女の中で高さとりでです——48:3。
4. 彼女は敵にとって恐怖です——3-6 節. 76:2-3。
5. 彼女は麗しさの極みです——50:2。
6. 彼女は神の大いなる喜びの目標です——51:18。
7. 裁きの座は神の都の中に設けられます——122:5。
8. 主は彼女から他の人たちを祝福し、主は彼女からほめたたえられます——134:3. 135:21。

わたしたちが良き地としてのキリストを享受することの結果は、神性と人性の合併であり、神の永遠の住まいまた王国です

VI. わたしたちが良き地としてのキリストを享受することの最終の結果は、手順を経た三一の神と、彼の再生され、造り変えられ、栄光化された三部分から成る人々との神性と人性の合併であり、神の永遠の住まいまた王国です——啓 21:3, 22. 22:5。